

# ゲミレル島遺跡と巡礼活動

—— 東地中海の初期キリスト教遺跡調査から ——

中 谷 功 治

## は じ め に

ゲミレル島は小アジア南西部、古代リュキア西端の都市テルメッソス（現在のトルコ共和国フェティエ市）の南約 8 km に位置する小島である。1991 年以来、リュキア地方ビザンティン遺跡調査団は、このゲミレル島を中心に付近の遺跡の学術調査・発掘を実施してきた。中世末に至るまで、史料はこの島について沈黙したままではあるが、10 年以上にわたる調査で発見・確認された一連の美術史・建築史上の指標からは、この島が隆盛を見たのは古代末期、おそらく 6 世紀前後であったと推測される。

ゲミレル島は東西約 1 km、南北約 350 m の小島である。その南西部に位置する山頂（標高約 99 m）からは、北東と北西の二方向に尾根が伸びており、島は地形的に大きく二つの区域に分かれる。注目すべきことに、ゲミレル島に存在する宗教関連施設の大半は、山頂から延びる二つの稜線に沿って分布している。すなわち、北西へ延びる尾根の途中に第 2 聖堂、下りきった海岸近くに第 1 聖堂がある。山頂のすぐ東には第 3 聖堂およびその関連施設、なだらかに東へと下る稜線に沿っては廊下が第 4 聖堂へと続いている。第 2・第 3 聖堂や廊下の周辺には墓域が広く展開しており、比較的平坦な第 4 聖堂の東側にも、尾根の東端まで墓地や墓が点在する。一方、島の南北の両斜面においては世俗的な住宅域が形成され、北部沿岸には広く港湾施設（水没した埠頭）が展開している。

聖堂を中心とした宗教施設・住宅域・墓地・貯水槽・埠頭など、ゲミレル島の遺跡分布の特徴からは、この島が一定のまとまりをもった都市遺跡を形成していたといえるだろう。

かつてゲミレル島がかなりの人口を擁していたことは確実である。小規模なこの島に 4 つもの聖堂が存在すること自体、住民の多さを物語っている。それを裏付けるように、最大で千トン近くの水を溜めうる貯水槽が北斜面中腹を東西に延びる長壁の内側に構築されている。けれども、本来この小島が多数の住民を養えなかったこともまた明白である。食料や燃料をはじめとして、必要な物資の大半は島外よりもたらされる必要があった。島の北岸に沿って長く続く水没した埠頭がそのことを明示している。

ここで忘れてはならないことは、この島の宗教施設を中心とした構造的特徴である。とりわけ、住宅域近くにある他の 3 つの聖堂とは異なり、山頂近くに孤立して存在する第 3 聖堂は注目に値する。北斜面の主要な居住域からは長壁によって隔絶され、主なアクセスとしては第 4 聖堂西から長く廊下に通じている。

この独特な廊下の存在は、島の住民というよりはむしろ第 3 聖堂への来訪者の存在を示唆してはいないだろうか。たとえば、東地中海を船で旅をする人々を迎える、地方の小規模な巡礼地という可能性である。あくまでも推測ではあるが、古代末期における東方の聖地を目指した巡礼活動の隆盛や東地中海での活発な海上交易の存在が、古代にはほとんど注目されなかった小島がある時期に急速な発展をし、多くの住民を集め、来訪者を迎えたというのが状況に対する現状ではもっとも妥当な説明であるように思う。

ゲミレル島からは、現在の通称である「聖ニコラオス」との関連を暗示する銘文が見つかっている。リュキア地方を中心に航海の守護聖人として崇敬を集め、その後西欧に渡ってサンタクロースへと変貌を遂げる伝説上の人物、ゲミレル島は聖ニコラオスに関連した巡礼の島であった可能性を持っているのである。

## 1. リキア地方ビザンティン遺跡調査団の調査経緯

- ・調査対象：ゲミレル島およびその周辺地域（トルコ共和国南西部）  
＝ムーラ県フェティエ市、旧リキアのテルメッソス郊外
- ・調査時期：9月頃約1ヶ月間
- ・経緯概要
  - 1990年：予備調査・・・現地視察実施は1991年春（湾岸戦争終結後：鹿島美術財団助成金）
  - 1991年：第1次調査・・・科学研究費補助金：代表者 辻成史（大阪大学：美術史）
  - 1992年： 〃 「リキア地方沿岸 古代・中世交易都市の美術、建築、都市計画の調査」
  - 1993年： 〃 （調査の主要内容：現地周辺のサーヴェイ）
  - 1994年：補充調査・・・現地シンポジウム（約2週間）→予備報告書『阪大文学部紀要』作成
  - 1995年：第2次調査・・・科学研究費補助金：代表者 浅野和生（愛知県教育大学：美術史）
  - 1996年： 〃 「リキア地方（トルコ南西部）沿岸 初期中世都市遺跡の発掘・調査」
  - 1997年： 〃 （調査の主要内容：ゲミレル島第3聖堂の発掘）
  - 1998年：現地博物館作業・・・遺物整理・写真撮影等（約2週間）
  - 1999年：第3次調査・・・科学研究費補助金：代表者 浅野和生（愛知教育大学）
  - 2000年： 〃 「東地中海の港湾都市遺跡の総合的研究」〈基盤研究A(2)〉
  - 2001年： 〃 （調査の主要内容：発掘の継続＋建築班・カヤ村調査班）
  - 2002年：前年調査の継続（CRL＝通信総合研究所との共同作業の実施）
- ・調査団の編成（2002年秋段階）
  - 1) 発掘班：ゲミレル島第3聖堂の発掘
    - 考古学・・・福永伸哉・清家 章・大学院生（大阪大学考古学研究室）
    - 美術史・・・浅野和生・大学院生（愛知教育大学）・益田朋幸・大学院生（早稲田大学）
    - 写真・・・大橋哲郎（大阪大学総合学術博物館：写真）
    - ※調査協力者・・・飯島章仁（岡山オリエンタ美術館）
  - 2) カヤ班：カヤ村ならびに周辺領域の調査：教会関連建築物遺構、フレスコ画  
益田朋幸・大学院生（早稲田大学）・大月康弘（一橋大学）
  - 3) 建築班：ゲミレル島内の主要建築物の調査・計測、★遺構分布調査  
太記祐一（福岡大学）・建築史院生（東京大学工学部）・中谷功治
  - 4) CRL班：ゲミレル島第2・3聖堂の三次元計測  
独立行政法人 通信総合研究所：門林理恵子（主任研究員他）
- ・遺跡の推定時期：古代末期＝初期ビザンツ～6世紀（早ければ5世紀後半）  
時代推定の材料＝教会堂の建築様式（バンリカ）、床モザイクの存在と文様・モチーフ  
フレスコ画の表現様式、銘文のパレオグラフィー＋全般的な時代状況

## 2. ゲミレル島遺跡の建築物遺構の分布について→ゲミレル島遺跡地図

### 1) 聖堂および関連施設：西より I~IV

- 第1聖堂：バシリカ様式、一部を除きほぼ全壊、洗礼槽、床モザイク
- 第2聖堂：バシリカ様式、アプスの半球ドームなどが残る、アプス後方にバストフォリウム、床モザイク
- 第3聖堂：バシリカ様式、★いわゆる聖ニコラオス聖堂→発掘調査実施中
- 第4聖堂：バシリカ様式、ほぼ全壊、教会堂コンプレックスは島で最大

- ### 2) 廊下 Corridor：第3聖堂アプス後方から第4聖堂アトリウム西側に続く
- 幅約2.5メートル、全長約160メートル、ヴォールト架構、直径2メートル弱のアーチ状窓

### 4) 長壁 Long Wall

北斜面中腹に東西約250メートル、高さ最大で5メートル  
山頂方向への登り口：第2聖堂南東に2、第3聖堂真北に1（幅約1メートル、階段と「柵」?）

### 6) 都市域 City Zones：

- A) 島北側斜面、
- B) 島南側斜面、
- C) 第2聖堂の西側斜面

### 5) 大貯水槽 Large Cistern

島の随所に非常に多く存在する貯水槽の最大のもの。内法東西約33、南北約6メートル

### 7) 沿岸部 Waterfront（北側）

地盤の沈降、水没した埠頭  
北側沿岸部を中心に岩盤を掘り込んだ区画：  
測量ポイント6~13付近までの約650mに102区画内に貯水槽58以上、区画間に排水溝38以上、階段14箇所以上

Fig. 2 Map of Gemiler Ada.

### 3) 墓地 Graveyard：

墓のタイプ=A：岩盤竪穴式、  
B：ヴォールト天井状、他にドーム状

墓域1：第2聖堂付近堂＝崖下15（竪穴9）、長壁北12（竪穴4、墓碑銘）、長壁南33（竪穴22）

墓域2：第3聖堂付近堂＝山頂付近竪穴5、聖堂北テラス付近2（ドーム1）、廊下北 竪穴2 + 第3聖堂内部（発掘）により時代の下がる墓：箱式石棺基7、石蓋土壇墓2

墓域3：廊下南側、とりわけ長壁東端付近を中心に点在19基（竪穴6）

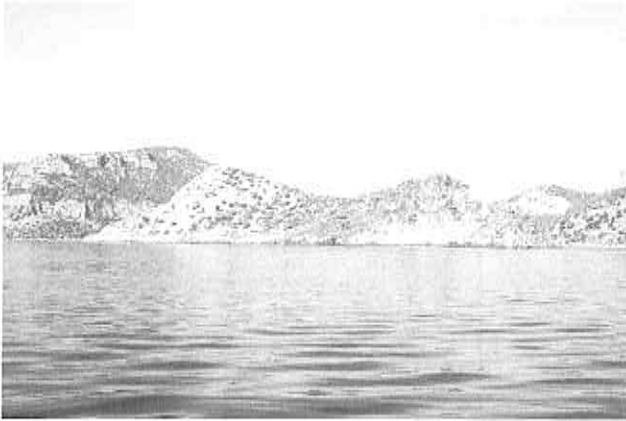
墓域4：第4聖堂東、ヴォールト墓点在5、その東の墓地に11（ドーム1）

さらに島の尾根東端6（竪穴2、島最大のもの1）

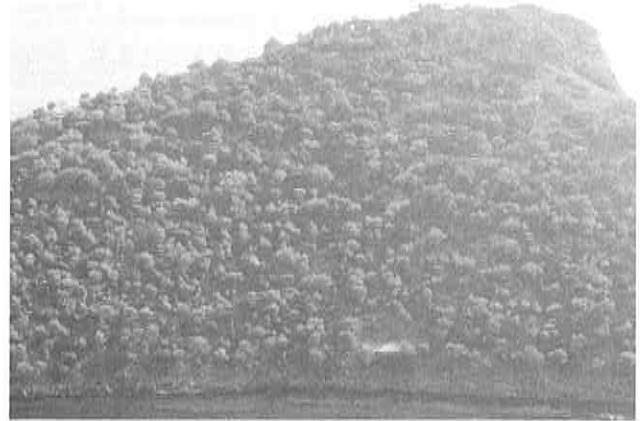
その他、南側斜面東にヴォールト型1基、竪穴1基

合計確認墓数=121

### 3. ゲミレル島の写真紹介



ゲミレル島（長壁と北岸）



ゲミレル島（南側より）



廊 下



第3聖堂（発掘）

### 4. ゲミレル島遺跡の構造の特徴

- 北岸を中心とした都市部の発展～物資や人間の活発な移動～商業活動？
- 長壁の役割～それによって隔てられる領域～聖城？
- 廊下の存在～第4聖堂から第3聖堂へ～「参詣」？
- 「聖ニコラオスの島」～聖ニコラオス崇敬の展開？～聖地巡礼とのかかわり？

### 5. おわりに

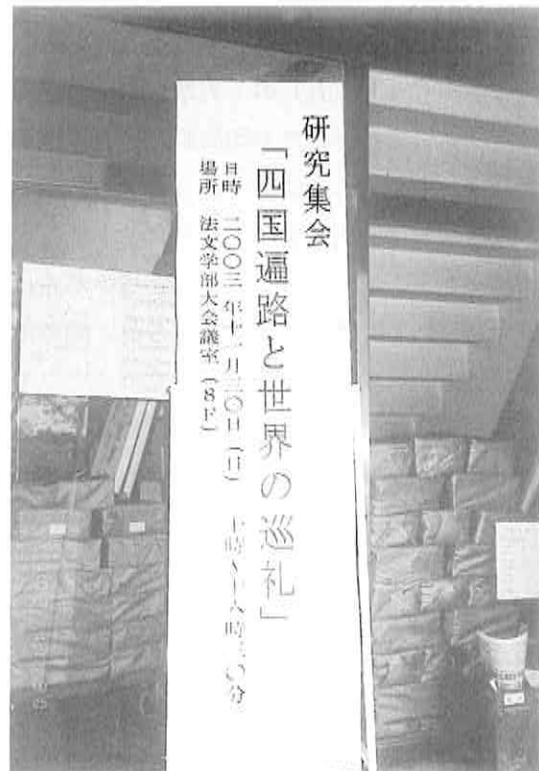
- 調査の今後・・・・・・・・財政難による継続の危機
- 現地の観光開発・・・・・・・・トルコ共和国 地中海沿岸屈指の観光地エリュデニス

【SELECTED BIBLIOGRAPHY】

- 1) Sodini, J.-P., Restes byzantines au sud de Fethiye (Makri, Telmessos) en Lycie occidentale, in *ΕΤΦΡΟΣΙΝΟΝ*, vol.2, Athens, 1992.
- 2) Foss, C., The Lycian Coast in the Byzantine Age, *Dumbarton Oaks Papers*, 48, 1994.
- 3) 益田朋幸「聖ニコラオスたちの島ーリキア地方のビザンティン遺跡と聖ニコラオス信仰ー」『地中海学研究』17, 1994年。
- 4) Shigebumi Tsuji (ed.), The Survey of Early Byzantine Sites in Ölüdeniz Area (Lycia, Turkey), The First Preliminary Report 『大阪大学文学部紀要』(35巻, 1995年)。
- 5) 『聖ニコラオスの島ーゲミレル島(トルコ地中海)の発掘調査ー』リキア地方ビザンティン遺跡調査団, 1998 (*Island of St. NicholasーExcavation of Gemiler Island of Mediterranean Coast of Turkey*, Research Group for Byzantine Lycia, 1998)。
- 6) 浅野和生「聖ニコラオス島ー地中海沿岸ビザンティン遺跡発掘記ー(1~6)」『SPA Z I O』(日本オリベッティ) 27~31 (No.54/55/56/57/58/59), 1996~2000年。
- 7) V・ルッジェリ「古代末期からビザンティン時代へートルコ地中海(リキア、カリア地方)の都市遺跡と教会建築ー」『清泉女子大学キリスト教文化研究所年報』8, 2000年(益田・浅野注釈)。
- 8) 中谷功治「ゲミレル島北岸の遺構についてーリキア地方における初期キリスト教遺跡ー」『愛媛大学教育学部紀要(人文・社会科学)』31-2, 1999年。
- 9) 同 「ゲミレル島遺跡の構造についてー東地中海の初期キリスト教遺跡調査からー」『人文論究』(関西学院大学文学部) 53巻1号, 2003年5月, 43~57頁。
- 10) 調査団の暫定ホームページ: <http://www.jttk.zaq.ne.jp/sfuku239/lycia/index.htm>



公開シンポジウム案内板(本学正門)



研究集会案内板(法文学部本館玄関)